2022年　第20回「スリランカを知ろう」の報告

8月27日（土）16時30分から約2時間、対面とwebで第20回「スリランカを知ろう」が開催されました。今回は「スリランカの現状と将来をスリランカ人留学生の視点で!」のテーマで、M. D. Suddra H. Gunathilaka（スディーラ　グナティラカ）さんの講演を受けました。スディーラさんは2015年に来日し、東京工業大学大学院の博士課程に在学中で、空手などの趣味の他にスリランカ学生団体の役員も担っています。

講演は、日本のマスコミでも連日報道されているスリランカの政治経済危機についてです。その原因は、スリランカ国内のインフラ整備のための無謀な借金、急激な有機農業への転換による農産物生産の落ち込みなどの政策の失敗、2019年4月259人が犠牲になったイースターテロによる観光業への打撃などがあります。さらに2000年からのコロナ禍により外貨不足による輸入が激減し、燃料や医薬品が不足・価格高騰したことで国民生活の危機に直結しました。金持ちでも、極端な貧乏でもない国民の多くを占めているミドルクラスの人たちの生活が、一気に苦しくなりました。そして、特定の政治家一族に権力が集中し不正への疑惑が、国民の怒りに火をつけました。政府への責任追及は平和的なデモなどで暴力的ではなく、流血などが広がらなかったことは幸いでした。当面の危機を乗り越えるには、日本を含めた外国からの支援（債務の処理策など）が必要だが、将来的にいい方向か悪い方向に行くか見通せない不安があるとのことでした。

参加者からは、普通の人々の生活や、選ばれた政治家たちについて質問がありました。スディーラさんは学生の立場から、懸命に勉強して大学などの高等教育を受けても国が将来どうなるのだろうという不安があるという若い人たちの気持ちを話してくれました。また、政治家に対する不信については、スリランカでは政治と生活が強く関係していて、政治家にいろいろな頼みごとをすることが日常化していることも、政治家の腐敗に繋がっているのではないかと指摘していました。

講演の後は、「セイロンうりと豆のカリー」のビデオを見ました。約2mの細長いセイロンうりと豆や野菜にスパイスを加えて煮立てるのを見ていると、ちょうど夕食時だったこともあり食欲がわいてきました。

今回の講演は西東京中央公民館とweb（ティームス）の両方で約14人のハイブリッドで行いました。webではオーストラリアからの参加（英語でした!）もありました。まだ、その運営になれていないのですが、遠隔地からの参加も出来るのでこれからも利用できると感じました。

（山崎）